

連載 アセアン物流最前線 15

アルプス物流

タイ・バンナ第2期倉庫の検討進める

アルプス物流のタイ現地法人は、バンコク近郊バンナ地区での倉庫増強を検討していく。賃借倉庫面積の拡大のほか、自社倉庫の隣接地での第2期倉庫を投資計画に入れている。2019年5月に同地区で立ち上げた同国初の自社倉庫「バンナ倉庫」は1万2545平方メートルの空調スペースがあり、電子部品や半導体関連で求められる倉庫環境を提供中。同国では空調スペースを持つ倉庫はまだ少ないとして、需要動向も踏まえながら判断していく。



柿沼恵一郎社長

このほどアルプス・ロジスティクス(タイ)の柿沼恵一郎社長が本紙の取材に応じた。同社の陣容は外部スタッフを含めて約210人。そのうち日本人駐在員は3人。主な倉庫はバンナ地区、バンコク近郊のレムチャバンおよび北部アユタヤにあり、電子部品や半導体関連を取り扱う日本と同水準の倉庫をコンセプトに運営している。

バンナ倉庫の敷地面積は3万2000平方メートル。延べ床面積は2万3094平方メートル。そのうち1階の常温スペースは7613平方メートル。また、1階と2階にある空調スペースは合計1万2545平方メートル。温度・湿度管理、帯電防止、防塵対策などの環境を整える。柿沼社長は、「タイでは空調スペースがある倉庫はまだまだ少ない。電子部品関連の顧客や、中でも半導体商社からは空調ス

ペースを強く求められる」とする。もともと同国での保管業務はレムチャバン、アユタヤ、バンナの3地区の賃借倉庫で業容を拡大してきたが、需要の拡大も見込んで初の自社倉庫として立ち上げた経緯がある。足元の荷動きは停滞傾向にあるが、顧客動向や競合関係も踏まえながら、判断していく方針だ。

足元の荷動きでは「自動車関連は堅調と言われるが、生産・販売計画を下方修正するセットメーカーもある。新型コロナウイルス禍でサプライヤー、商社、部品メーカーが発注した品目が届き始めており、在庫が増加傾向」という。また、洗濯機や冷蔵庫、エアコンなど白物家電やテレビ関連の荷動きは「あまり良くない」という。

サービス面では越境陸送でタイーベトナム路線開設を課題とする。現在、

バンコク発着路線はマレーシア・クアラルンプール、カンボジア・ポイペト、ラオス・ビエンチャンの3路線。輸送量はクアラルンプールとの間が最も多く、同路線ではバンコク着が多いという。ポイペトとの間では定期的に月2~3台のトラックを運行中。ベトナム関連では香港と結ぶ越境陸送は運行中だが、タイとは接続していない。コスト面も考慮しながら、ラオスからダナン経由でホーチミンやハノイを結ぶルートなどを検討していく。タイ国内の輸配送ネットワークは、アユタヤ倉庫を北部、バンナ倉庫を東部、レムチャバン倉庫を南部の核として整備。日本で培った共同保管・共同集配のノウハウを生かした混載トラックサービスを展開中だ。

営業面では現在の顧客は全て日系のため、非日系の獲得を課題に取り組む。